様式1 # 平成 31年度　山梨県立高等支援学校桃花台学園学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	人としてあるべき姿を培うとともに、職業教育を通じて、意欲的に社会参加する力を養成する。

高等支援学校桃花台学園校長　小佐野　勝彦

本年度の重点目標	1　全ての生徒に目標を持たせ、自己実現および社会的自立を促す指導と支援を行う。
	2　職業教育・キャリア教育の観点に立って、働く意欲・態度・能力・コミュニケーション力を育成する。
	3　軽度の知的障害生徒の特性を理解し、「規範意識」や「自他を尊重する力」を育成する。
	4　「わかる授業づくり」や「シラバス検討」を行い、「確かな学力」を育む指導を行う。

達成度	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価							学校関係者評価	
	本年度の重点目標			年度末評価（2月17日現在）			実施日　（令和元年3月18日）	
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	生徒が目標を持ち、自己実現および社会的自立ができるような指導・支援を行う。	全職員が教育目標を共通理解・認識し、教育活動を推進する。 専門教科と普通教科の関連性を考慮しながら職業教育の充実を図り、一般就労を目指した教育課程の編成及び運営を行う。 校内規程や個別の教育支援・指導計画等を細部まで検討する。 わかりやすい授業をめざして、教科指導の向上のために相互授業参観と研究活動の充実を図るために公開研究会を実施する。	人事評価制度の有効活用、報・連・相の一層の徹底 教育課程の点検と見直し、授業公開、キャリア教育の充実 校内規程の見直し、生徒に係る支援・指導計画及び評価等の検討 相互授業参観の実施回数　教職員アンケート	・概ね全職員が教育目標や校長の運営方針を共通理解・認識し、保護者にも示すことができた。 ・教育課程や教育活動の整備を心がけ、就労を目指した教育内容について、保護者の理解が深まった。 ・校内規程についてや個別の教育支援計画・指導計画について、必要に応じて検討を行った。 ・わかりやすい授業を目指した校内研究や公開授業研究会を実施した。県内の小中学校や特別支援学校の教員の参加があった。 ・全教諭が授業を実施し、相互に授業参観を行い、7割の教員が参観した。	B	・引き続き本校の教育理念や教育方針を保護者に示していきたい。 ・社会に開かれた教育課程の観点を取り入れながら、就労を目指した教育課程について引き続き整備を行っていきたい。 ・職員間で連絡・報告・相談を円滑に行い、校長の運営方針が実現できるように協働、連携していきたい。 ・授業力の向上をめざして、次年度以降も相互授業参観を実施し、より多くの教員が授業を参観できるようにしていきたい。	3	・生徒一人一人に丁寧に関わり、指導・支援が実践できている。今後はそれらの内容が社会全体から求められる。 ・生徒像とマッチしているかも考慮し生徒の力を外へと伸ばしてほしい。 ・相互授業参観は大いに評価できるが、反面「参観したい授業と自分の授業が重なってしまった」の意見には配慮する必要がある。 ・社会の中で役に立つ存在であることをアピールできるような学校であってほしい。 ・生徒の障害特性のとらえについて、専門性の向上を。 ・教職員アンケートで自信を持って「できている」と回答できるような取り組みを期待する。
2	働く意欲・態度・能力・コミュニケーション力を育成するために、生徒の特性に応じた職業教育を行う。	産業界との連携や地域人材の活用を通して、産業技術科各コースの教育内容の充実を図る。 生徒一人一人の特性や能力に応じた専門的な教育・支援を行い、一般就労を目指す。 進路先となる一般企業等に、本校の生徒や教育内容の理解・啓発を図る。	外部専門家や外部資源の有効活用 一般企業等への就労率80%以上（数値目標設定）と職場定着の維持 企業対象学校説明会の開催、進路先の開拓	・外部専門家の活用では、教職員の肯定的な評価は9割弱だった。 ・一般企業の内定率は1月現在で90%超だった。 ・企業対象説明会を年２回実施し、のべ50社、60人以上の参加があった。進路先に大収穫祭の案内を配布し啓発に努めた。 ・キャリア教育優良学校として文部科学大臣の表彰をうけた。	B	・外部専門家や外部資源の活用を積極的に行っていく。 ・卒業後のグループホームについては、保護者が主体となって検討する流れを定着させたい。 ・卒業生の職場定着について、今後も関係機関と連携しながら取り組みたい。	4	・「働く意欲」という点で教育が実践されている。今後は「働く」をもう少し広くとらえ、「生涯就労」を意識した内容も積極的に取り入れてほしい。 ・内定率90%であることは評価できる。 ・卒業後のグループホームに関わって、早期から福祉との結びつきを。支援してもらえるネットワークを作っておかなければならない。 ・就職率達成が一人歩きしないように注意を払うべき。
3	生徒の特性を理解し、「規範意識」や「自他を尊重する力」を育成する。	学習・生徒会活動、学校行事等を通して、主体的に考え取り組む態度を養成する。 生徒の問題行動や事故の未然防止、及び非常災害等への対応策を講じる。 生徒一人一人を尊重し障害特性や実態を把握し、合理的配慮による指導を行う。	シラバスの検討と提示、生徒会活動、学校行事運営の改善 危機管理体制の点検と見直し、安全教育等の充実 指導の可視化・構造化と適切な評価、合理的配慮の適否と職員間の共通理解	・学校行事、学年行事について、保護者から概ね肯定的な評価だった。主体的に考え取り組む態度の育成に努めた。 ・いじめ、問題行動等の未然防止と早期対応について、保護者の肯定的な概ね肯定的な評価だった。 ・学校安全計画や危機管理マニュアルの策定を行った。 ・一人一人に応じた配慮した支援については、昨年度より保護者の評価が高まった。	A	・学校安全計画や危機管理マニュアルについては、常に見直しを行っていく。 ・問題行動等の未然防止と早期対応については、学校生活、学習活動全般を通じて「人としてあるべき姿を培う」ようにしていきたい。	3	・問題行動やいじめ、危機管理などは当事者でないと深刻さが実感できないため対策が後手に回りやすい。生徒一人一人が「他人事ととらえない」教育方法を模索し続けてほしい。 ・いじめは決して学校だけの問題ではないがいじめない人になる教育が重要。 ・生徒一人一人の障害特性や状態の把握について、教師の理解度は改善の優先順位が高い。
4	高等支援学校の特色を保護者・地域に広め、地域に開かれた学校づくりを行う。	保護者・地域住民とのふれあい・交流機会を通して、高等支援学校の教育内容を周知する。 学校ホームページや広報資料を活用して、保護者・地域住民へ情報発信する。 家庭・地域・関係機関との効果的な連携を行い、進路指導・生徒指導の充実を図る。	桃花ダイスキマーケット・収穫祭・交流事業等の開催、校外実習の充実 学校ホームページの公開と更新、広報活動の充実 連絡帳、懇談会、家庭訪問等の充実、ケース会議開催	・ダイスキマーケットの来校者数は天候や季節による変動があるが45人から70人、大収穫祭の来場者数は500人を超え、本校を知ってもらう機会となった。 ・ホームページの更新33回、ブログのアップ数は27回行い、情報発信に努めた。 ・保護者とは日々の連絡や懇談会、家庭訪問等により共通理解を図った。関係機関とはケース会議等を通じ情報の共有と連携に努めた。	A	・多くの方々に幅広く本校を知ってもらえるような取り組みを行っていく。 ・本年度新たに桃カフェの日を設定し、食品加工の喫茶とパン等の販売を行った。ダイスキマーケットと同様周知していきたい。	4	・地域に開く一番の手段は自ら地域へ出かけることだと思う。今後は「桃カフェ出張店舗」など実際に外へ発信する機会が増えるとよい。 ・地域との交流を今後も続けてほしい。 ・ダイスキマーケットや桃カフェの日の充実に期待。来場者参加型のイベントなど少しずつ変化をつけていくとよい。 ・メールシステムを活用したHPの充実を

留意点（1）重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
（2）学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。